

区分	検討会（第1回）の意見概要	検討事項	改訂の方向性（案）
基本となる考え方	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 前回改訂時のガイドライン名称変更には自助・共助を重視する意図があった。今回の改訂では<u>緊急時の対応を前提に、人命とペット福祉のバランスを考慮した内容</u>検討が必要。 ➢ <u>緊急時に平時の動物福祉の水準を求めるすぎることで避難が妨げられる可能性や、自治体の対応範囲の限界があることを認識することも必要。</u> ➢ <u>人の防災力を高め、その上でペットを守る対策をどう講じるべきか</u>という考え方のベースを改めて検討していただきたい。 ➢ 3つのリフレーミングが必要と考える。①多様な市民属性の一つとして<u>ペット飼養者を含めたインクルーシブな防災・減災</u>、②飼い主の適正飼養と「飼い主力」の向上、③避難に関する用語の再定義と行動変容の促進。 ➢ ガイドラインの目標の一つは「<u>飼い主とペットが無事に災害を乗り越えることで地域の防災力向上につながる</u>」こと。今回の改訂でもこの視点を盛り込むべき。 	✓ 大規模災害時行政機関がペット救護対策を実施するとの意義や目的の再整理	■ガイドラインの総説における災害時のペット対応の意義や目的について、必要な整理を行う。
構成、見せ方	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自治体が<u>ペットに必要な環境や準備を分かりやすく示す</u>必要があり、環境省と連携しながら、適切な情報を伝える方法を検討したい。 ➢ 担当者の異動がある自治体では、<u>災害時にすぐ活用できるよう、ガイドラインにおいて重要情報を簡潔に示すなどの見せ方の工夫</u>が必要。 	✓ 構成をはじめとするとりまとめ方法だけでなく、インデックスや各ページのデザイン面も含めた検討	■構成を再構築し、主体別に情報をなるべくまとめる形にして、必要な情報を入手しやすくする。また、ページデザインも専門家を入れて視覚的にも見えやすく整える。
部局間連携	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ガイドラインの内容は充実しているが、混乱が繰り返される原因は活用する側の関係性やコミュニケーション不足。改訂だけでなく<u>防災実践を通じた連携</u>が必要。 ➢ <u>自治体や獣医師会などが定期的な検討の場を設ける</u>ことが重要。 ➢ <u>防災部局と動物関係部局の連携不足</u>が感じられる。<u>平時から行動を通じた連携を強化</u>することが必要。 	✓ 防災訓練等をはじめとする平時からの連携体制構築の必要性	■都道府県と自治体、部局間の連携などについて、新たに章立てをして、事例等も紹介し、情報を厚くする。
体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>ガイドラインを活用する人材や普及の仕組み</u>が不足している。動物看護師などの専門職が啓発活動に関わることで普及が進むのではないか。災害支援ナースのような仕組みを参考に<u>動物看護士の役割を明確化し、連携を強化</u>する必要がある。 ➢ 動物関連団体の連携不足が現場の混乱を招いた。<u>登録制度を設け、背景のわかる団体が被災地に入る仕組み</u>を整える必要がある。 	✓ 災害時の動物看護士の役割の整理 ✓ 既存の仕組みを利用（応用）したペットに関する支援体制の仕組みの検討	■官民含め、関係機関の役割などについても情報を更新する。
避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ペット対応の立派な避難所や同室避難を求める動きがある一方で、<u>近くの避難所でいかにペットにも対応するか</u>という視点が必要。 	✓ 避難所におけるペット対応の方法や種類、工夫の解説	■避難所での動物飼養環境の整え方について、考え方や必要な物資、具体的な事例などを掲載する。

情報収集、支援	<ul style="list-style-type: none"> ➤ また、中間支援組織やボランティアがペットの情報収集を行えるよう、<u>ペットに関する項目を設けるべき。</u> ➤ 物資の管理やニーズに合った支援が課題となった。<u>情報収集を行う人材と連携してニーズに応じた支援を効率的に行う仕組みを構築することが重要。</u> ➤ 支援活動と地元経済の復興を両立させる視点が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の仕組みを利用（応用）したペットに関する情報収集の仕組みの検討 ✓ 支援の考え方の整理、物資の管理 ✓ 復興に向けた支援の考え方の整理 	<p>■被災者の情報収集や物資の支援については、行政や民間での取組事例も交えながら解説。必要な情報の更新を行う。</p>
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 輪島や珠洲などでは、ペットに関して地域防災計画の記載は存在したが、実際の避難所運営では混乱が発生した。<u>平時から受入れルールや運用を明確化し、飼い主自身も避難訓練に参加するなどして内容を理解する必要がある。</u> ➤ ガイドラインの実務担当者への浸透が不十分で、避難所運営マニュアルにも反映されていない。<u>普及方法を考えるべき。</u> ➤ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 効果的な情報発信と普及啓発の手段の検討 	<p>■一般飼い主向けの情報も引き続き掲載。ペットとの避難についての考え方や平時からの備えについて、必要な情報の更新を行う。</p>